

平成29年第6回栗原市議会定例会 一般質問【個人質問】 通告表

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
1	5番 佐藤 範 男	1 土地の総合管理 機能の強化を	<p>1 地方公共団体の自治事務の最も根幹をなすものは、「人口」と「土地」の管理であると言われている。この中で、特に「土地」の管理については、全国的に「所有者不明化」が顕在化し、問題化してきている。</p> <p>また、近年は栗原市内でも、中山間地域の生産性の低い農地や荒廃した山林などで、都市部に居住する親族の相続放棄や、近隣に買取りや無償譲渡でも希望者がなく、自治体への寄付も断られるという「いらぬ土地の行き場がない」状態も惹起し始めている。</p> <p>そこで、栗原市の土地管理状況の実態と、今後の対応について、以下、質問する。</p> <p>(1) 栗原市の「固定資産課税台帳」について、以下の直近の数字等を示せ。</p> <p>① 土地の固定資産税の個人の納税義務者総数と筆数、面積（ヘクタール単位）と、その内訳として、課税免税点以上と課税免税点未満の当該対象数。</p> <p>② 当該台帳上の不動産登記情報で、最終更新時期が50年以上前の土地に係る当該対象数（以下、課税免税点以上に限る）。</p> <p>③ 「死亡者課税」のうち、「相続人代表者指定届出書」と「納税管理人申告書」、「固定資産現所有者届」の当該対象数。</p> <p>④ 固定資産税の「課税保留」に係る当該対象数。</p> <p>⑤ 固定資産税の免税点未満の納税義務者の把握については、どのように行っているのか。</p> <p>⑥ 「所有者不明化」の進行に伴う固定資産税課税事務推進上の課題は何か。</p> <p>2 水田農業の基礎データとなる「農業者別営農計画書」の申告外の市内の水田で、所有者（耕作者）が不明な土地の所有者数と筆数、面積（ヘクタール単位）を示せ。また、「所有者不明化」の進行に伴う事務推進上の課題は何か。</p> <p>3 「農地基本台帳」における所有者（耕作者）が不明な農地の所有者数と筆数、面積（ヘクタール単位）を示せ。また、「所有者不明化」の進行に伴う事務推進上の課題は何か。</p> <p>4 市内には、「空家等対策の推進に関する特別措置法」に規定する「空家等」は何軒あるのか。うち、「特定空家等」は何軒か。また、「特定空家等」のうちで、所有者が不明な軒数は何軒か。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>5 国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠すると、42年後の平成72年には栗原市の人口は3万人を割り、老年人口も平成32年をピークに大きく減少に転じる。このことは、土地の「所有者不明化」に一段と拍車がかかり、放置すれば、地方公共団体の「土地」の管理機能が立ちいかなくなることを意味する。</p> <p>国に対して、国土管理の土台となる土地政策の革命的な大改革を働きかけるとともに、市の土地管理対策の総合調整機能を具備した「(仮称)総合土地調整局」を設置し、具体的な土地管理行政と市民に対する土地管理の啓発活動を展開すべきと考えるが、いかがか。</p>
		<p>2 「(仮称)栗原辻前線」整備の計画概要を明示せよ</p>	<p>1 平成26年6月定例会の一般質問の答弁で確認したとおり、当該整備事業は、現在工事中の「市道辻前遠堀線」と「(仮称)栗原辻前線」は一体的な道路として重要な幹線で、必要不可欠な路線であること。そのため、「市道辻前遠堀線」の工事を先行させ、次に「県道栗駒岩出山線」から「国道457号」までの西側の路線は、県営圃場整備事業「稲屋敷袋地区」で道路拡幅用地を確保すること。そして、栗原地区から「国道4号」への接続については、平成28年度の「市道栗原辻前線道路整備事業」で、複数の接続ルートを検討する委託業務は終了しており、当該整備計画の具体化の時期を迎えた。</p> <p>そこで、以下、一連の関係事業の現在までの進捗状況と今後の対応方針について、伺う。</p> <p>(1) 「市道辻前遠堀線」は、国道457号南郷八升から南郷日向までの全長2,446メートルの工事区間で、第1期事業(過疎代行の1,026メートル)は平成18年度で完了済み、第2期事業(南郷遠堀から国道457号南郷日向までの620メートル)は平成25年度から平成28年度まで、第3期事業(南郷広面から国道457号南郷八升までの800メートル)は平成28年度から平成32年度の5か年の予定との答弁であったが、現在の進捗状況はどうなっているのか。</p> <p>(2) 県営圃場整備事業「稲屋敷袋地区」は、計画面積は148ヘクタールで、関係者は173名である。事業の第1段階は、平成26年度に調査同意が得られ、第2段階では、平成27年度から平成29年度の3か年で調査事業の採択、推進同意と県への施行申請、第3段階として、平成30年度に工事着手、工事期間は最短で7年で、順調に進めば、平成36年度に完了を見込むとの答弁であったが、現在の進捗状況はどうなっているのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 栗原地区から「国道 4 号」への接続ルートであるが、平成 28 年度の委託業務では、何ルートを検討したのか。平成 29 年市議会 9 月定例会での答弁によると、現在、どのルートが最良かを検討中とのことだが、ルート決定はどの時期になる見込みか。</p> <p>(4) 当該整備事業に係る計画については、実施時期が明確にならないため、今年度の総合計画や過疎地域自立促進計画の平成 28 年度から平成 32 年度の概算事業計画に予定事業費は示されていないが、「市道辻前遠堀線」や県営圃場整備事業「稲屋敷袋地区」の進捗状況を勘察し、事業期間や事業費などの計画概要を明示すべき時期と考えるが、如何か。</p>
2	25 番 相 馬 勝 義	<p>1 入の沢遺跡を活用したまちづくりについて</p> <p>2 築館高校野球部グラウンドについて</p>	<p>1 国道 4 号築館バイパスの工事過程において、入の沢遺跡が発見され、宮城県教育委員会の調査により、非常に重要な遺跡であることが判明した。このことから、6 月に開催された国の文化審議会において、国の史跡の指定となることが決定され、10 月 13 日官報に告示され、市内で 12 件目の国指定の文化財となっている。</p> <p>また、入の沢遺跡が発見された城生野地区には、同じ国の史跡である伊治城跡もあり、伊治城から発掘された出土品を地区内の旧富野小学校に、市内各地から集約した文化遺産の民俗資料を展示保管する施設を整備することとしている。</p> <p>このように、この地区は、まさに栗原市の文化財の宝庫として、全国に PR していくべきと考える。そこで質問する。</p> <p>(1) 入の沢遺跡を市が取得して、整備保存し、公開すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(2) 伊治城跡整備基本計画の中に、入の沢遺跡との連携について組み込んではいかがか。</p> <p>(3) (仮称) 栗原市民俗資料館整備事業についても、入の沢遺跡及び伊治城跡についても展示してはいかがか。</p> <p>(4) 城生野神楽なども含め、富野地区全体を「歴史をたどる文化の地区」として整備してはいかがか。</p> <p>(5) 入の沢遺跡の要因により、国道 4 号バイパス整備の進捗状況にどのような影響があったのか。</p> <p>1 昨年の 12 月議会において、築館高校野球部グラウンドの新設について一般質問したが、次の 2 点を質問する。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 宮城県教育委員会は、現在の築館高校野球部グラウンドが校舎から遠い位置にあり、校舎の隣接地に新たなグラウンド整備をする必要性があるとの認識を持っており、平成 27 年 6 月 8 日付けで宮城県教育長より築館高校校舎、校庭の隣接地に移設できるよう要望書をいただいております、28 年度は、12 月まで 2 度担当者において打ち合わせを行い、宮城県と栗原市において新設グラウンドの必要性について共通認識があったので、今後も継続して協議を進めるとの答弁であったが、昨年 12 月以降の宮城県との協議の状況はどのようになっているか。</p> <p>(2) 新設グラウンド周辺の道路整備については、築館高校周辺の築館宮野地区は、第 2 次総合計画において都市機能及び生活機能が集約された市の核となる重要な場所であり、中核ゾーンとして位置づけられた中で整備すべきものと考えており、グラウンドの移設計画が決定された時点で、道路等を含め整備していくとの答弁であった。 グラウンドの移設までの間、築館野球場の使用について再質問したところ、前向きに検討するとの答弁であったが、その後の状況はどのようになっているのか。</p>
3	19 番 阿 部 貞 光	<p>1 市長カフェの開催と選挙公約実現</p> <p>2 除雪・融雪対策は万全か</p>	<p>1 新たな市民との意見交換の場として、11 月 14 日から 12 月 3 日までの間、10 地区、全地区を対象として、11 日間市民カフェが開催されている。 今後の市政に活かされるものと考えているが、次の点について伺う。</p> <p>(1) 参加希望人数とカフェ参加人数は。(男女、年齢、各地区毎)</p> <p>(2) 対象者を限定した理由を伺う。</p> <p>(3) 市長カフェで出された意見・プラスのアイデアはどのようなものか伺う。</p> <p>(4) 市長カフェでの意見を今後どう活かしていくのか伺う。</p> <p>(5) 選挙公約実現に向けた取り組み状況はどうか伺う。</p> <p>1 全国的に除雪の現状は、契約の不調、事業者の倒産、オペレーターの高齢化、人材不足等により、除雪体制の崩壊が心配されている状況にある。 本市では、いち早くオペレーターの育成支援や除雪作業機の貸し出し、除・融雪費の見直し等を行い、冬期間の安全確保に努めてきたところである。 今年度の除・融雪対策について伺う。</p> <p>(1) 各地区の除雪・融雪事業者数と除・融雪機の準備は万全か伺う。また、本市内で除・融雪を行える事業者数はどうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) オペレーター育成支援の効果はどうか。</p> <p>(3) 冬期間の安全確保のためには、道路、歩道脇の支障木等の処理（伐採等）が必要と考えるが、現状と対応はどうか伺う。</p> <p>(4) 「地域の守り手」といわれる事業者が、除・融雪作業から撤退する動きが全国的な問題とされている。本市の状況はどうか。また、撤退理由をどう捉えているか伺う。</p> <p>(5) 市内には門口の長い家や老人世帯では、冬の除雪作業に苦慮している家が多い状況にある。手を差しのべ、冬の安全確保の考えはないか伺う。</p>
		3 鳥獣被害を減らす努力を	<p>1 熊・イノシシ・シカ等の目撃情報等は増加している状況にあり、更なる対策が求められると考える。次の点について伺う。</p> <p>(1) 狩猟免許所持者の推移と新規取得者数はどうか。</p> <p>(2) 捕獲鳥獣の処分は埋設等により行われているが、限界がある状況にある。捕獲頭数の増加を見越した処理方針、処理場建設、ジビエ活用を含め示すべきと考え伺う。</p> <p>(3) 鳥獣被害対策実施隊との情報共有はどのように行われているか。また、実施隊からの要望はどうか伺う。</p> <p>(4) 第三期宮城県イノシシ管理計画で、栗原市は重点区域に指定されている。有害鳥獣捕獲や個体数調整を積極的に実施するとされている。有害捕獲したイノシシへの謝礼金の額（1頭あたり）と捕獲謝礼金の見直しを求める。</p>
		4 新たな教育への対応は	<p>1 学校教育法施行令の一部を改正する政令等が平成29年9月13日に公布され施行されている。今回の改正は、保護者の有給休暇の取得を促進することと併せて、長期休業日の一部を学期中の授業日に移すことにより、休業日を分期化することで、児童生徒等と保護者等が共に体験的な学習活動等に参加し、心身の健全な発達を促進する環境を醸成することに期待することとされている。</p> <p>しかし、実施にあたっては、地域・企業等の理解と協力体制の整備が求められると考える。</p> <p>本市での取り組みについて伺う。また、今回の改正をどう捉えているか伺う。</p> <p>2 学習指導要領が改訂され、幼稚園では平成30年度から、小学校では平成32年度から、中学校では平成33年度から完全実施されることとなる。</p> <p>今回の改訂では、特に小学校中学年での外国語活動の授業、時数として35単位、高学年では外国語授業として70単位とされている。対応についてどう捉えているか伺う。</p> <p>また、幼稚園では、平成30年度から完全実施されることになるが、どのような教育になるか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		5 農地中間管理機構と農業委員会について	<p>1 農用地の利用の効率化の促進を図るため、農用地等を貸したい農家から農用地を預かり、集積・集約化し、担い手農家へ農用地の貸し付けを行う組織として、農地中間管理機構が設立している。</p> <p>しかし現状は、出し手と借り手のマッチングが行われた農地のみ機構を通じた契約行為になっていないと考える。本来の機構の機能を促進すべきと考え伺う。</p> <p>(1) 農業委員会と農地中間管理機構との連携にかかる活動方針が示されているが、これまでとどう変わったのか。また、内容について伺う。</p> <p>(2) 農業委員会による農地パトロールが実施されているが、遊休農地の現状と利用意向調査の回答、農地中間管理機構への通知状況を伺う。</p> <p>(3) 耕作放棄（遊休農地）解消に向けた取り組みを更に進めるべきでは。</p>
4	20 番 濁 沼 一 孝	1 市民の声	<p>1 市長は当選前の4年間、市内全域を歩き、市民の生の声を聞き、市政運営に全身全霊で取り組んでいると思われる。少子高齢化が進む中、暮らしたい栗原、住んで良かった栗原実現のため、一日一生の思いで頑張ってもらいたいと思う。次の点について質問する。</p> <p>(1) 市道上田線の早期整備について。</p> <p>平成20年岩手・宮城内陸地震により甚大な被害を受けた。現在の路線を変更し、新路線の整備を議会に請願し、採決の結果、賛成多数で議決された。しかし、未だに整備されていない現状である。近年は異常気象で予想もしない災害が多発している。市長も発災時、現地を視察し、やらなければと言っていたが、市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 栗駒みちのく伝創館に観客席の整備を。</p> <p>栗駒地区では色々なイベントが行われる時は、栗駒みちのく伝創館が利活用されている。しかし、栗駒地区でも高齢化が進み、イベントを開催する時に会場の設営が大変になってきている。志波姫地区の「この花さくや姫プラザ」のような移動式の観客席の設置を要望する声を多く聞くが、市長の見解を伺う。</p> <p>(3) 国道398号線と市道106号線の交差点の早期整備を。</p> <p>この交差点は、約30m以内に2つの信号機が設置されている。しかも、どちらも右折する車両がある時は、大きさにもよるが2台から3台が並ぶスペースしかない。朝の通勤時には大分長く車列が続く。早期に県に要望し対応すべきと思うが、見解を伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(4) 築館工業団地の整備の進捗状況は。 市長は現在、工場の建設が進んでいる築館インター・若柳金成インター工業団地の次は、築館工業団地と位置付けている。宮城県土地開発公社との話し合いはどこまで進展しているか伺う。</p> <p>(5) 金成総合支所西側に住宅団地の整備を。 築館インター・若柳金成インター両工業団地は、現在企業の皆さんが一生懸命に工場の建設を進めている。今後はこの工場で働く従業員の確保が課題になると思う。そこで提案であるが、金成総合支所西側に住宅団地の整備をしてはと思うが、見解を伺う。</p>
5	4番 佐藤千昭	1 クロベの文化財指定について	<p>1 栗駒山系に自生するクロベの中で最も太く古い巨木は、幹の周りが 10m、樹高は 21.5mである。この巨木は、すでに全国巨樹・巨木林の会の調査により、「日本最大級」であることが分かっている。</p> <p>(1) 平成 28 年末現在の林野庁の全国の森の巨人たち 100 選に選ばれていないが、それはなぜか。</p> <p>(2) 国指定天然記念物になるほどの巨樹であると思うが、県、市の天然記念物にも指定されていない。それはなぜか。</p> <p>(3) 天然記念物指定に向けて専門家と協議をしてきたのか。その経緯と協議内容を聞きたい。</p> <p>(4) 市、県、国の天然記念物指定に向けてのスケジュールがあれば伺う。</p>
		2 松くい虫の被害対策について	<p>1 宮城県では県内の松くい虫被害が依然として増加していることもあり、第 5 次松くい虫被害対策事業推進計画を樹立して、松くい虫被害対策の総合的かつ計画的な推進を行うとしている。</p> <p>栗原市の現況を見ると、市内の私有林、市有林で松くい虫の被害が見受けられ、拡大している。貴重な松を松くい虫被害から守り、拡大を防ぐ必要がある。</p> <p>(1) 栗原市内の私有林、市有林の松林面積と 8 齢級以上の松林は。</p> <p>(2) 栗原市内の松くい虫被害の推移について伺う。</p> <p>(3) 栗原市の松くい虫の駆除方法について伺う。</p> <p>(4) 栗原市の松くい虫被害対策の今後の方針について伺う。(林種転換、被害木利用促進)</p>
		3 各種選挙の投票率向上にむけて	<p>1 各種選挙で投票率が低下しているが、特に若年層の投票率が低く政治離れが深刻になっていると聞く。栗原市の現状について伺う。</p> <p>(1) 昨年から選挙年齢が 20 歳から 18 歳に引き下げられている。投票率など、これまでの選挙と比較して、どのような影響があったか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) 全国的に投票率が低くなっていると聞く。投票率向上に向けて、市選挙管理委員会として特に取り組んできたことがあれば伺う。</p> <p>(3) 栗原市の投票所は 57 箇所である。バリアフリー化について伺う。</p> <p>(4) 駅や大型商業施設など多くの利便性が高い場所で自治体の判断で共通投票所の設置が可能になっている。くりこま高原駅に、投票所の設置はできないのか。</p>
6	15 番 佐藤 悟	1 労働政策について	<p>1 人事院勧告について 平成 29 年 8 月 8 日人事院は、本年の官民較差に基づき、月例給と一時金を引き上げる勧告を行った。栗原市は、国・県に準拠して、下記(1)~(3)について改定すべきであると考えているがどうか。</p> <p>(1) 正規職員の給与。</p> <p>(2) 再任用職員の給与。</p> <p>(3) 非正規職員（臨時、パート職員）の給与。</p> <p>(4) 改定した場合のラスパイレス指数を伺う。（直近の一般行政職について）</p> <p>2 時間外労働について 議会報告会等でも市行政・職員の多忙化、長時間労働、健康被害が心配されている。</p> <p>(1) 時間外の実態はどうか。</p> <p>(2) 時間外労働の指示命令、時間外管理はどうか。</p> <p>(3) 時間外協定の締結内容はどうか。</p> <p>(4) 事業量・業務の見直し、簡素化、改善、改革は、どう行われているか。</p> <p>3 人事異動・人事配置について 人事異動・人事配置の基準はどうか。また、本人の希望調査（書）は、どう生かされるのか。</p> <p>4 心のケア・相談体制について 病気（心身のストレス含む）による長期休業者数はどうか。また、心のケア、相談体制、支援体制はどう行われているか。</p>
		2 除雪・融雪安全対策について	<p>1 今年度の市としての市道・生活道の除雪・融雪、安全対策の基本方針、具体的取り組みは万全か。</p> <p>2 保育所・幼稚園、小・中学校等の通園・通学路と歩道の対策はどうか。</p> <p>3 大雪時の商店街通りの除雪は、河川等への搬出処分を行う必要があると考えるがどうか。</p> <p>4 国・県・市道における地吹雪対策用の防護柵の設置、山間道の雪崩対策の防護柵の設置を行うべきであると考えているがどうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			5 高齢者一人暮らし、高齢者のみ世帯への生活道の除雪、屋根の雪降ろし作業等の支援策が必要である と考えるがどうか。
		3 福祉政策について	<p>1 地域包括ケアシステムについて</p> <p>(1) 市の体制整備の現状と今後の方針はどうか。</p> <p>2 介護保険制度について</p> <p>(1) 第7期(平成30年度～平成32年度)「栗原市介護保険事業計画」について、下記の点を伺う。</p> <p>① 計画策定の進捗状況と今後のスケジュール。</p> <p>② 第1号被保険者数、第2号被保険者数。</p> <p>③ 平成30年度の介護度別認定者数(要支援1・2、要介護1・2・3・4・5)</p> <p>④ 第1号介護保険料(基準となる第5段階(1.0)の介護保険料)</p> <p>⑤ 世帯全員非課税や生活保護受給者などへの減額(軽減)措置はどうか。</p> <p>⑥ 介護サービス利用料(金)の被保険者自己負担割合(現行=1割、一定以上の所得者2割)はどうか。</p> <p>3 予防給付の新総合事業への移行について</p> <p>(1) 予防訪問介護・予防通所介護の新総合事業への移行を拙速に進めず、地域間格差を生じないように従来のサービス水準を確保するための基盤整備を図るべきであるがどうか。</p> <p>(2) 新総合事業に移行した要支援1・2の利用状況と意向はどうか。</p> <p>4 認知症施策の拡充について</p> <p>(1) 地域の中で認知症の人とその家族を支える「見守り・声掛け・相談・支援」の仕組み作りが重要であり、現状と今後の取り組みはどうか。</p> <p>(2) 医療介護連携による認知症の早期診断・早期対応の体制整備はどうか。</p> <p>(3) 認知症サポーター養成の拡充を図るべきであり、現状と今後の取り組みはどうか。</p> <p>5 安心して暮らせる居住の場の整備について</p> <p>(1) 特別養護老人ホームの現状と今後の整備計画はどうか。</p> <p>(2) 低所得・要介護(要援護)高齢者が安心して暮らすため、「養護老人ホーム」の施設整備と機能強化(職員配置)の改善が必要であると考えているがどうか。</p> <p>6 介護労働者の処遇改善と人材確保について</p> <p>(1) 平成27年度改正の介護報酬処遇改善加算(一人当たり月額1万2千円相当)の実施状況はどうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			(2) 事業者に対して、人材確保に資する各種交付金等も活用し、介護離職や子育て離職の無い就労環境等整備する市の支援体制が重要であり、現状と今後の支援計画はどうか。
		4 教育政策について	<p>1 栗原市奨学資金貸付制度について、下記の点を伺う。</p> <p>(1) 制度の概要</p> <p>① 貸付基準(条件)</p> <p>② 貸付額</p> <p>③ 貸付人数</p> <p>④ 返済方法(分割・均等割・期間)</p> <p>(2) 平成28年度、平成29年度の</p> <p>① 貸付実績(人数、金額)</p> <p>② 返済実績(人数、金額)</p> <p>③ 滞納状況(人数、金額)</p> <p>(3) 審査委員会について</p> <p>① 委員数</p> <p>② 委員会構成</p> <p>③ 平成28年度・平成29年度の開催(審査)状況</p> <p>(4) 制度の拡充・見直しについて</p> <p>① 貸付定員数の拡大</p> <p>② 1人当たり貸付金の増額</p> <p>③ 返済(還)金の免除・減額措置の拡大</p> <p>2 日本学生支援機構の奨学金制度について、下記の点を伺う。</p> <p>(1) 制度の概要</p> <p>① 貸付基準(条件)</p> <p>② 貸付額</p> <p>③ 貸付人数</p> <p>④ 募集時期</p> <p>⑤ 返済方法</p> <p>⑥ 申請・取り扱い窓口</p> <p>(2) 平成27年度・28年度・29年度の栗原市民の利用実績(高校・専門学校・大学別)</p> <p>(3) 国に対し、奨学金の返済不要の給付型奨学資金制度の拡充を強く求めていくべきであると考えがどうか。</p> <p>3 就学援助費について</p> <p>(1) 栗原市の平成30年度の小学校・中学校への新1年生の児童・生徒数は、それぞれ何人か。</p> <p>(2) 経済的に困窮する家庭の新小学校1年生、新中学校1年生に対して、就学援助費の支給は入学前に前倒して支給すべきであると考えがどうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
7	16番 三浦善浩	1 「いのちを守る」取り組みを!!	<p>1 女性特有のがん対策について がんは、国民2人に1人が発症し、3人に1人が死亡すると云われている。乳がんは、自分で発見できる唯一のがんといわれている。乳がんについて啓発する情報提供を推進することが重要である。そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) 入浴時に乳がんの自己チェックに利用できるシート（お風呂場に貼れる乳がんチェックシート）を配布する事業を導入し、取り組んではどうか。</p> <p>(2) 乳がんについて啓発する情報を載せた「ドアノブプレート」を配布する事業を導入し、洗面所などのドアノブに掛けて使っていただいてはどうか。</p>
		2 行政組織改編の先を問う!	<p>1 行政組織改編（産業経済部の改編）の先について伺う。</p> <p>(1) 農政の司令塔としての役割はどう変わるのか。</p> <p>(2) 放射能対策は、すべて新たな部署で対応するのか。</p> <p>(3) 商工振興はどう進めていくのか。</p> <p>(4) 企業立地の今後の方向性と展開はどうなるのか。</p>
		3 一般質問の「その後」を問う!	<p>1 これまでに、一般質問でいくつかの提案をした。その後の検討結果について伺う。</p> <p>(1) 「介護マーク」について。</p> <p>(2) 子ども議会の開催について。</p> <p>(3) 「健康マイレージ」事業の取り組みについて。</p>
8	7番 高橋勝男	1 栗原市の考える中高一貫教育とは	<p>1 平成19年の栗原市立学校再編計画から10年になるが、岩ヶ崎高校と栗駒中学校を想定した栗原市内における中高一貫校の創設について、教育部内及び教育委員会等での検討状況と、県との協議はどうなっているのか。</p> <p>2 平成29年3月に卒業した市内小学校生534名中17名(3.2%)が市外の中学校に進学している。同じく中学生は597名中188名(31.5%)が市外の高校に進学をしている。教育長は、この状況についてどう考えているのか。</p> <p>3 今年の10月に福井県立美方高校の連携型中高一貫校の視察調査を行ったが、宮城県で進めている志津川高校の連携型中高一貫校のやり方とは違い、中学校2年生の12月時点で、美方高校に入学し4年制大学を目指すという目標をもった生徒の中から選考して3年生から連携クラスが編成されている。県によっていろんな連携方式があるようだが、栗原市らしい、中高一貫教育の形態についてどのように考えているのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 学府くりはらのため郷土出身の及川平治先生の実践に学べ	<p>1 平成 30 年 2 月発行予定で進められている宮城県教育委員会発行のみやぎの先人集「未来への架け橋」第 2 集に栗原出身の 3 人が掲載されている。一人は歌人の白鳥省吾氏、二人目は栗駒文字の藍染めで有名な千葉あやのさん、三人目は若柳出身の及川平治氏である。</p> <p>平成 14 年、若柳では及川平治顕彰の大事業として、記念碑の建立、記念誌の発行、記念式典が開催されている。</p> <p>(1) 及川平治先生の教育理念について伺う。</p> <p>(2) 及川平治先生の教育理念が、今日の教育にも生かすことができるのか。有益なのか、役に立つのか。</p> <p>(3) 活かすことができるとすれば、どのような形で教育現場に取り入れるのか。</p> <p>(4) 学力向上対策プロジェクト事業として秋田県大仙市へ教員派遣を行ったが、どのような成果があり、及川平治先生の教育理念が活かされていたのか。</p>
		3 国保税率の引き下げを	<p>1 宮城県は、国民健康保険の財政運営が平成 30 年度に市町村から県に移管されるのを前に、市町村別の保険料試算を公表している。栗原市の場合一人あたりの年間保険料は現行より 10.4%下がる見込みとなっているが、国民健康保険税率の引き下げについて検討されているのか。</p> <p>2 新制度に移行後、県への納付金の算定方式が、栗原市の場合、どの時点で 4 方式から 3 方式に移行するのか。また、移行によってどのような影響が考えられるのか。</p>
		4 汚染牧草処理の 今後は	<p>1 今年の 9 月に「栗原市汚染牧草処理方法調査業務」報告書が提出され、その後、農業関係者等から意見を聴いて市としての処理方針を決めるとなっていたが、いつ、どういったメンバーで開催し、どのような意見が出たのか。</p> <p>2 報告書のまとめでは、最終的な処理方法に向けては、安全性に最大限配慮し、市民へ丁寧な説明を行っていく必要があるとなっているが、今後の進め方は如何に。</p>
		5 市内全域での 100 円バス実施 時期は	<p>1 市長は、6 月議会で、片道運賃 100 円バスの実施時期を平成 30 年 4 月からという答弁をしてきているが、先の記者会見では、片道運賃 100 円バスは市内全域ではなく瀬峰地区だけ来年度から実施するとの報道があった。どのような状況になっているのか。また、市内全域での 100 円バス実施の時期はいつになるのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
9	13 番 沼 倉 猛	1 県立循環器・呼吸器病センター跡地利用について	1 県は跡地を貸与する業者を固めたとの報道があるが、以下の点について伺う。 (1) センター1階にクリニックを開設するというが、診療科目は何を予定しているか。また、一般市民も受診できるのか。 (2) 貸与をする要件の中に、地域振興に関するものがあるが、業者の提案はどうなっているか承知しているか。
		2 農業政策について	1 栗原市は農業が基幹産業のまちである。その農業が後継者難、高齢化などで衰退し、農村社会が存亡の危機にあるが、以下の点について伺う。 (1) 農業の後継者難・現役世代の高齢化は、どこに原因があると思っているか。 (2) 多くの稲作農業者は経営が赤字でも農業を続けているが、どうしてだと思ふか。 (3) 米の直接支払交付金制度は来年度から廃止になるが、農業の所得補償の観点からは大きな後退である。これについて市長はどう思うか。また、栗原市への影響をどう見ているか。 (4) 今後の国の農政政策は青色申告者や認定農業者などに限られてくると思うが、栗原では青色申告者や認定農業者の数はどう推移していくと思われるか。 (5) 栗原市は平成29年3月に農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想を出している。基本的指標はほとんどが経営規模の拡大がベースになっているが、構想の達成率をどう見ているか。 (6) 国はTPP交渉について、アメリカを除く11カ国で貿易自由化を大筋合意したとしている。これについて、見解を求める。 (7) 国はTPPやFTAなどを推進しようとするとき国内向けに「強い農業づくり」を目指すとしている。政策の中心となっているのは6次産業化や農産物の輸出ができる農業だが、栗原市でどのぐらいの農業者が対応できるか、見解を伺う。 (8) 農業の大規模化は農村人口の減少につながり、地域経済の疲弊を加速させるがどう思うか。 (9) 農地中間管理機構の農地の斡旋状況はどうか。 (10) 専業、兼業を問わず、やる気のあるすべての農家を対象としたきめの細かい農業政策、国、県、末端自治体も含めた政策が必要である。国に働きかけるべきではないか。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
10	1番 佐藤庄喜	1 伊豆沼・内沼に観光客用のトイレ設置について	<p>1 伊豆沼・内沼、そして栗駒山は栗原市の2大観光シンボルである。地滑り地形、ラムサール条約湿地の伊豆沼・内沼を巡りながら、歴史や文化を知るジオパークツアーの人気は高まっていくと思う。更に伊豆沼・内沼は、環境省の「日本の音風景100選」にも選ばれた。以下について伺う。</p> <p>(1) 早朝よりマガンが飛び立つ瞬間を観察するため沢山の方が来訪する。ジオパークのシンボル地に冬は白鳥、マガンの飛来、夏はハス群生を鑑み、調和のとれたトイレの設置は必要と思うが、市の見解を伺う。</p>
		2 「伊治」城の読み方を「これはり」城の一本化に	<p>1 河北新報の記事によると、伊治城の読み方を地元で根強い「いじ」としたようだが、多賀城跡から出土の漆紙文書に此治城と表記され、「これはり」から「くりはら」に変化したと見られることから、「これはり」が有力となっている。合併で誕生した栗原市のルーツにも関わり、歴史的価値の高い「伊治城」の読みが2つあっては、知名度を上げるのに支障が生じかねないとする。以下について伺う。</p> <p>(1) 中学社会の教科書にも「これはり」とある。栗原という名前のルーツであると有力視されている「伊治」城の読み方を「これはり」城と統一した名前で申請し直してはどうかと思う。見解を伺う。</p>
		3 歴史博物館の建設について	<p>1 767年、古代律令国家が東北地方経営のため、城柵として伊治城を造営した。朝廷に従っていたエミシ大領の伊治公咎麻呂は、朝廷の侵略で幸福な暮らしを奪われたので反乱となった。これが780年、咎麻呂の乱である。多賀城を占拠した偉大な北の英雄、伊治公咎麻呂は栗原の礎をつくった人物であったと思う。本来、もっとクローズアップし、敬愛しなければならない人物である。</p> <p>また、栗原には小迫の延年をはじめ、多くの伝統文化芸能もあり、多くの人々を魅了してきた。歴史には力がある。以下について伺う。</p> <p>(1) 2年後の2019年6月に栗原になってから1250年を迎える。ぜひ栗原市に内容の充実した歴史博物館を作り「歴史とロマンの市—栗原」を大々的にPRすべきかと思う。参考だが、一関市博物館は、そばに道の駅もあり観光客の集客にも寄与しているようである。市の見解を伺う。</p>
		4 栗原市中小企業振興条例の推進状況について	<p>1 愛媛県松山市の「中小企業振興基本条例制定後の具体的な振興施策の推進」について、内容を把握のため行政視察を実施した。この条例では9つの基本方針を定め、更に産学官連携による中小企業支援の取り組みと円卓会議があった。やる気のある中小企業をオール松山で応援するということであった。</p> <p>栗原市では中小企業振興条例を平成29年4月1日から施行している。以下について伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 栗原市中小企業振興会議設置要綱では、委員は 20 名以内で組織するとされているが、現在の委員数とこれまでの会議の開催回数を伺う。</p> <p>(2) これまでの会議でどのような内容の意見が出され、それらを今後どのように対応をし、遂行していくのかについて伺う。</p>
		5 栗原市雇用拡大奨励金制度について	<p>1 中小企業の雇用は人口減少もあり困難となるが、中小企業のやりがいも含め総合的な良さをPRし、根気よく中小企業を支援していく必要がある。栗原市でも新規学卒者の就職支援のため、「くりはらジョブ・フェア」を開催し、積極的に推進していることも承知している。以下について伺う。</p> <p>(1) 栗原市雇用拡大奨励金支給要綱第 4 条に規定する奨励金の額を増額すべきと考えるが、市長の考えを伺う。</p> <p>(2) 栗原市雇用拡大奨励金支給要綱第 2 条第 3 号に規定する「新規学卒者」の条件は修了後 3 年以内の者と規定しているが、この年数を 5 年～7 年に条件を拡大すべきと考えるがどうか。</p>
1 1	24 番 佐々木 嘉 郎	1 どうする栗原創生	<p>1 栗原市の将来推計人口は、2060 年（平成 72 年）に国立社会保障・人口問題研究所が公表している 29,335 人を 35,036 人に上げたいとしている。何とかして国立社会保障・人口問題研究所の推計人口よりも 5,700 人ほど上乗せしたい計画を示している。この人数は現在の大衡村や女川町の人口に匹敵するもので、町ひとつ分に相当する。どのような施策が必要か、考えを聞きたい。以下、第 2 次栗原市総合計画にそって質問する。</p> <p>(1) 新たな人やモノの流れをつくるためには、市の「へそ」となる、都市機能が集積された中核機能地域を整備する必要がある、となっている。どのようなイメージか。</p> <p>(2) 自家用車に頼ることができない市民の移動手段の確保は、生活を守る上で不可欠の課題なので、誰もが利用しやすい公共交通の再構築をする必要がある。買い物や通院困難者の人数は把握しているか。具体的な改善策を示してほしい。</p> <p>(3) 人口の減少問題については、社会減にどう取り組むかが重要である。考え方、施策についてききたい。</p> <p>(4) 本市将来人口の推計によれば、現在の合計特殊出生率 1.50 を平成 32 年 1.65、平成 37 年 1.80、平成 47 年 2.07 とみている。計画達成のためには、まず結婚してもらうことが重要である。仲人報償金制度も考えてはどうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
1 2	2 番 小 野 久 一	1 放射能汚染廃棄物は安全保管を！	<p>1 10月に行なわれた宮城県知事選挙において村井知事は、加美町宮崎地区から遊説をスタートし、冒頭で「この3期目で、一番ご迷惑を掛けた」と謝罪し、「不安をあおる施設を無理につくらず、集約化して安全に長期保管すべきだと提案する。」と国任せの姿勢を改める姿勢を明らかにした。指定廃棄物最終処分場の候補地の一つとなった栗原市の首長として、どう受け止めたか。知事からの方針の転換の報告はあったか。</p> <p>2 栗原市に存在する指定廃棄物は現在宮城県において建屋内やビニールハウス内で保管されているが、「長期保管する」とした村井知事に対し、今後どう対応して行くのか具体的な案の提示を求めるべきと思うし、また、市からの積極的な提案が必要と考えるがどうか。</p> <p>3 8,000ベクレル以下の汚染牧草処理は、一か所に集めて安全保管が最良の方法ではないか。汚染土壌の処理方法がひとつの手本になるのではないか。</p>
		2 新設される市役所南側駐車場にトイレの設置を	<p>1 9月定例会において、公衆トイレの必要性を訴え質したが、「検討する」との答弁だったので、再度質問する。</p> <p>(1) 「敷地に災害時用の備蓄食料や資機材を保管する防災倉庫を建築することから、災害発生時には多くの運搬車両や支援関係者などの車両が出入りすることになる。」として設置は難しいとのことだが、災害発生時の指定避難場所である文化会館には16,000人、築館小学校には11,400人が避難するとしており、この場所は多くの住民や支援関係者が出入り・往来する場所となる。だからこそ必要ではないか。</p> <p>(2) 「来庁者駐車場となるスペースが当初計画より大分縮小となる。利用状況等も踏まえながら、ニーズの把握、費用対効果等も考えながら検討する。」との答弁があった。トイレにまで費用対効果を求めるのかという思いもある。人間にとって生理的・精神的な苦しみの解消や、そのことによってできる気持ちのゆとりは、最高の喜びではないかと思うので、ぜひトイレをつくるべきではないか。</p> <p>(3) 新設する駐車場の設計はできているか。また完成までの工事工程を示してほしい。</p>
		3 市民要望の実現を	<p>1 栗駒三迫川河川公園の施設案内版は何が書いてあるか判らないほど錆びついているが、直すべきでないか。また、公園内遊歩道へ降りる2本の道路に、車止めチェーンが張られているが、歩行者も通れない状況であり、工夫が必要でないか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			2 市が設置している電気自動車（EV）充電スタンドの利用状況を初年度から示せ。現在のEVスタンドの多くは、認証カード対応になってきていると仄聞するが、市設置のスタンドも、窓口への届出が必要なくなるような認証カードにも対応できるようにすべきでないか。
		4 市地域公共交通再編実施計画策定の進捗状況は	1 現在は計画策定にあたってどの段階か。住民意見交換会を開いたが、どのような意見や要望が多かったか。またそれがどのように生かされるか。
1 3	18番 佐藤 文男	1 有害鳥獣の抜本的な対策を	1 市内において鳥獣被害は年々深刻になっている。有効な手段はなかなか無いようであるが、個体数を増やさないことが、最も有効と思う。早期の対策を望む観点から、以下の点についてどうか。 (1) 市内における有害鳥獣の生息分布はどうなっているか。 (2) 捕獲され、殺処分された有害鳥獣の処理はどうなっているか。また、へい獣処理場が必要と思うがどうか。 (3) 捕獲された有害鳥獣の放射能測定はどうなっているか。 (4) 鳥獣被害対策実施隊の報酬、捕獲実績に応じた謝礼、費用弁償、等の引き上げなど、処遇改善を図るべきと思うがどうか。 (5) 市の（仮称）鳥獣被害対策課を設けて、専門的な業務を行う必要があると思うがどうか。 (6) 被害の様子を的確に把握する体制をつくるため、市民から被害の情報を収集するための周知活動に、もっと力を入れるべきと思うがどうか。
		2 ホールボディカウンタの測定実績と今後の方針について	1 市民の内部被ばくによる健康被害が心配されることから、平成 25 年 4 月から市設置によるホールボディカウンタで、希望者を対象に全身測定が始まったが、この間の実績と今後について質す。 (1) 年度ごとの測定者、未就学児・小学生・中学生・それ以外の人数はそれぞれ何人か (2) 測定結果はどのような傾向にあるか。 (3) 測定希望者が減少傾向にあると聞くが、希望者が有るうちは続けるべきと思うがどうか。
1 4	14番 高橋 将	1 市民要望の「見える化（可視化）」の導入を	1 栗原市内においては様々な市民要望がある。各総合支所や市役所において、市民要望をどのように管理し、適正に処理を行なっているのか伺う。 加えて、市民への情報公開を進め、行政の透明性向上に向けた市民要望の「見える化」についての考えを伺う。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 市内全体における市民要望の現状について 全体件数(直近3カ年、本年度は現在までの状況)はどうか。要望内容の傾向はどうか。また、偏りはあるか。1次回答までに要している時間は。進捗率(解決状況)はどうか。</p> <p>(2) 市民要望の管理について 受付・管理・優先順位確定のプロセスは均一化されているか。複数部署や複数年別での比較検討ができるような情報共有やデータベース作成は行われているか。</p> <p>(3) 市民への情報公開について 栗原市内における要望の受付状況や進捗状況を市民にわかりやすく伝えることで、官民ともに懸案事項への問題意識を共有し、解決していく必要があると考えるがどうか。</p>
		2 男女共同参画実現に向けての取り組みについて	<p>1 男女共同参画がうたわれて久しいが、未だに地域や職場、栗原市全体における、男女共同参画に対する意識は発展途上である。市民や一般企業への啓発を推進するためにも市民の手本となるような、男女共同参画実現に向けた、市の取り組みについて伺う。(くりはら男女共同参画推進プランをベースに伺う。)</p> <p>(1) 男女共同参画推進について 栗原市では男女共同参画は実現できているか。現状をどのように評価しているか。共同参画が実現すると栗原市はどうかと考えているか。</p> <p>(2) 現状について 市民における理解の進捗度合いはどうか。阻害要因はどのようなものが考えられるか。また、その対策は。目標値実現に向けて計画している具体的な施策はあるか。</p> <p>(3) 職場(市職員)での実情について 職場内で性別による働きにくさやハラスメントの実態把握調査を行なっているか。現状はどうか。育休や産休を取得する場合、取得しにくいと感じる職員はどの程度存在しているか。職場ではどのような取り組み、施策により理解を推進しているか。取り組みで一般企業でも参考にできる施策はあるか。</p>
15	21番菅原正剛	1 「くらしやすい栗原」に向けて	1 栗原市をはじめ各地区・各団体において様々なイベントが活発に開催されている。そうしたイベントに市民が参加できるように日程等が一目でわかる「くりはらイベントカレンダー(仮称)」を作成し、全戸配布してはどうか伺う。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>2 様々なイベントに参加しやすくするために、イベントの日一日はどこまで行って帰ってきてでもワンコイン（500円）で既存の市民バスが利用できる「くりはらイベントワンコインパスポート（仮称）」を実施してはどうか伺う。</p> <p>3 市内では、様々な地域活動やイベントが開催されており、そうしたことに積極的に取り組む市民に、ジャンルや個人・団体を問わず支援することにより、活動が活発になり、地域が活性化されると考える。 新たに活動をする場合、予算面で苦慮すると考えられ、そうした市民を支援する「くりはら地域活動助成事業（仮称）」、例えば初年度は全額助成、2年目は3分の2助成、3年目は2分の1助成にするなど、自立化させる仕組みとして、助成事業を制度化してはどうか伺う。</p> <p>4 栗原市では若者定住促進のための「婚活パーティー」を積極的に開催している。婚活パーティーは、年齢要件に上限がある。今後、40代から50代の方々も参加できるようにできないか伺う。さらに婚活パーティーを民間等に委託等できないか伺う。 また、「くりはら婚活プランナー」の方々は、どのような活動をされているのか伺う。</p> <p>5 栗原市の不妊治療助成事業は、宮城県から助成の決定を受けた方を対象としており、現在、宮城県では43歳未満が対象となっている。昨今、晩婚化が進んでいるので、そうした方々が不妊治療を受けやすい環境づくりも大切と考え、対象年齢の引き上げや助成金の拡大など、柔軟な取り組みをしてはどうか伺う。</p>
		2 「オンライン診療」導入について	<p>1 スマートフォンのテレビ電話で、医師に診察してもらえる「オンライン診療」が、多くの自治体で取り組みを始めている。 広大な面積の栗原市では、高齢化が進み通院できない方のために在宅医療へシフトしていく必要性もあると考える。通院に移動時間がかかる方や仕事でなかなか通院できない方のために診療ができ、医師の負担軽減にもつながるような取り組みとして、「オンライン診療」導入に向けて調査研究をしてはどうか伺う。</p>
		3 教育行政について	<p>1 閉校された学校跡地利用について、民間に売却した施設など、どのような状況になっているか伺う。また、今後どのように跡地利用を進めていくのか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>2 各地区にある公民館施設について、今後の利活用及び管理運営はどのように考えているか伺う。また、一迫地区の公民館のように指定管理に移行できないか伺う。</p> <p>3 ジュニア・リーダーの各地区の在籍人数と各地区の活動状況を伺う。次にジュニア・リーダー初級研修を栗原市子ども会育成連合会と共催されているが、その経緯について伺う。さらに少年教育の中のジュニア・リーダー活動の位置づけや今後の方向性、シニアリーダー（ジュニア・リーダーOB・OG）との連携について伺う。</p>
16	12番 三塚 東	<p>1 総合支所の機能を充実・強化すべき</p> <p>2 まちづくり情報は市民と共有すべき</p>	<p>1 市長は総合支所の充実・強化に取り組むとして、総合支所は市民の身近に行政サービスを受ける重要な場所であるとの認識に立ち、まずは職員の接遇能力の向上と市民が気軽に訪れることができる環境の整備に取り組んでいきたいと、6月議会の一般質問に答えている。総合支所機能の充実を求める住民の声は大きく、議会報告会にも意見や要望が寄せられた。総合支所の機能を充実・強化策について伺う。</p> <p>(1) 総合支所長は、最大500万円未満の工事について執行できる体制となっているが、現行の事務執行を見直し、500万円以上の金額が執行できる権限を与えるべきではないか。</p> <p>(2) 総合支所の機能の充実は、地域振興に欠かせない。特に高齢化率の高い地域にとってきめ細やかな保健指導を行うには、保健師の常勤が必要である。市内10地区の高齢化率はどうなっているのか。また、特に高齢化率の高い地域には保健師を常勤化すべきと思うが現行の体制を改める考えはないか。</p> <p>(3) 市は、人材育成型の人事評価制度を実施している。人事評価制度を実行していく中で、職員の「接遇」の向上が必要と考えるが、市ではどのような向上策を図っているか。</p> <p>1 市長がこれまで実施してきた行政懇談会は、発言が特定の人に限られる状況にあることや出席者が減少傾向にあることなどを憂慮し、市民と対話する「市長カフェ」と同時に、「行政区長と市長の懇談会」を開催した。行政区長や市民の意見・提言を直接聴き取り、市政運営に反映する試みとしては一定の効果があったと思う。しかし、市民とまちづくり情報を共有しなければならない、まちづくり政策やまちづくり計画を市民と共有できない今回の試みに気になるところがある。そこで以下について伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) まちづくり計画に伴う予算概要を知らせる「栗原市のお金の出所と使い道」や決算概要を知らせる「栗原市のお金の使い道」、また、「第2次栗原市総合計画」の概要について、これまで実施してきた市政懇談会のように、パワーポイントを使った説明会を開催すべきではないか。</p> <p>(2) 市は平成29年3月、長期的な視点に立った公共施設などの総合的かつ計画的な管理を推進することを目的とした、「栗原市公共施設等総合管理計画」を策定した。</p> <p>今後、安全性に配慮した持続可能な施設の計画的な管理は必要であるが、人口動態や市民のニーズを踏まえながら、施設の規模の適正化を推進しながらも、更新時には統合や廃止、複合化など、3つの基本方針が設定されている。</p> <p>こうした公共施設の管理情報を市の公共施設白書として公表する考えはないか。また、市公共施設等管理計画の説明会を開催しながら、進捗状況を市民と共有すべきではないか。</p>
	3 若い力を栗原づくりに活かす	3 若い力を栗原づくりに活かす	<p>1 若者や子育て世代が住みたくなるまちづくりを実現していけば、栗原は一層魅力的になり、ますます若者が集まり、結果的には高齢者にとっても住みやすい地域となるのではないかと考える。若い力を地域づくりに活かす施策として2例を紹介するが、市長の考えを伺う。</p> <p>(1) 愛知県新城市では若者政策を推進するために「若者条例」と「若者議会条例」を制定し、若者の意思や意見が伝わる機会を確保し、若者が自ら行動することで若者が活躍できるまちづくりを推進している。</p> <p>また、島根県江津市では、若者の移住と創業支援を狙いとするビジネスプランコンテストを実施し、市の地域資源の活用や地域の課題解決につながるビジネスプランを提案してもらい、その後の創業を支援している。</p> <p>全国的な事例を参考にしながら、若者の力を栗原の地域づくりに活かすことを考えるべきではないか。</p>
17	3 澤 邊 幸 浩	1 栗駒山麓ジオパーク特産商品「栗駒山麓のめぐみ」を活かす	<p>1 先般、認定を受け公表された、栗駒山麓ジオパーク特産商品「栗駒山麓のめぐみ」の活用について伺う。現在、栗駒山麓ジオパークを推進するべく様々な取組みがなされている。市民、観光客に向けジオパークを理解し、活動に参画してもらうためには、今回の特産商品についても、恒常的な拠点づくりが必要と考える。ついては、今後の事業推進に関して以下の点を伺う。</p> <p>(1) 栗駒山麓ジオパークの各事業で積極的に利用するようであるが、具体的内容を聞きたい。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) 来年度以降、新しい観光施設、観光拠点（栗駒岩ヶ崎地区観光物産施設・ジオパークビジターセンター・くりこま高原駅オアシスセンター等）の設立に伴い、特産商品の販売などに活用できると思うが如何か。</p> <p>(3) 現在、市内で活躍している若手の作り手による、くりはらマルシェ（市場）とのコラボレーションなど、市民協働による特産品の推進も必要ではないか伺う。</p>
		2 児童遊園のトイレ設置の現況について	<p>1 児童遊園は、子どもたちにとって貴重な遊びの場である。トイレが設置されていない児童遊園があり、利用する保護者からも安心して利用できないと、多数の設置要望の声を聞き、その対策を伺う。</p> <p>(1) トイレが設置されていない市内の児童遊園は、どれほどあるのか伺う。</p> <p>(2) 築館保育所・築館子育て支援センター裏にある広場には、トイレが設置されていない。近隣の子どもたちや保護者の利用頻度も高いようであるが、その理由を伺う。</p> <p>(3) 代用として、築館総合支所のトイレを利用するよう表示されているが、隣接されているわけでもなく、子どもにとっては不親切である。この広場にトイレを設置し、児童遊園に位置付ける考えはないか。</p>
		3 暮らしに直結する案内表示について	<p>1 現在、市内において様々な市の施設や観光の案内掲示がなされている。観光とは別に、暮らしに関連する案内掲示については、不便を要する箇所があり、その点を伺う。</p> <p>(1) 現在、築館地区にある「くりはら斎苑」に行く際、特に市外から来られる方にとって、国道4号線から市道に入る箇所（筋違橋手前交差点付近）などに案内表示があると親切であるという声を聞く。観光表示のみならず、外部の方にも思いやる、施設の案内表示も必要であると思うが如何か。</p>
18	10番 石川正運	1 東京オリンピック、ホッケーオーストラリアチームキャンプ誘致失敗はなぜか	<p>1 栗原市では東京オリンピックの事前キャンプ地の誘致については、オーストラリアのホッケーチームを誘致すべく努力を積み重ねて来ている所である。</p> <p>一方、栗原市とオーストラリアは青空大使派遣事業やホッケー競技国際交流事業等の交流実績をふまえて、事前キャンプ地誘致に向けた施設整備をぬかりなく取り組んで来た。残念なことにオーストラリアのホッケーチームは栗原に来ないことが決定との報告を受けたが、次の点を伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) オーストラリアホッケー協会からメールで、キャンプ地として他の 2 箇所を特定しており、その他の会場を検討する予定はないとの回答のようだが、栗原がはずれた要因をどうとらえているのか。</p> <p>(2) このことで、今後オーストラリアとの交流に影響はないか。</p> <p>(3) 報告では改めて各国にPR活動をした結果、興味を示したところがあるとのことだが、オリンピック開会もせまっているなかで、今後キャンプ誘致のため、どういうスケジュールで進めて行くのか伺う。</p>
		2 ホッケー用具配布校の取り組みについて	<p>1 栗原市は県内でもホッケーの盛んな地域であり、中学校、高等学校では県内はもとより、いつも全国大会に出場し活躍していることや、オリンピック女子選手が地元栗原から誕生したこと等もあって、将来のホッケー人口を増やし、ホッケーの町くりはらをとの意気込みもある。小学生からホッケーに親しんで楽しくできるスポーツの一環として、平成 28 年 5 月に小学校 5 校にホッケー用具一式を配布されたが、その後の状況を伺う。</p> <p>(1) 市内小学校に配布した用具一式の額はいくらか。</p> <p>(2) これまでの 5 校すべての活動状況はどうか。</p> <p>(3) 用具配布の効果と何名の児童が競技を行っているのか。</p> <p>(4) 指導体制はどうか、また、今後の取り組みは。</p>
1 9	17 番 菅 原 勇 喜	1 放課後児童クラブ委託料について	<p>1 今議会に放課後児童クラブ委託料の減額補正が提案されている。「精査に伴う減額」と提案理由で説明されたが、7,800 万円もの大幅な減額であるが、その理由は何か。</p> <p>2 当該事業は、就労支援であることから 3 款民生費 2 項児童福祉費に計上されている。ところが、「提出議案一覧の 12 月補正予算の主な内容」には、「教育部関係」に提示されている。予算編成、事業執行にあたっての責任の所在はどこか。</p> <p>3 受託者との委託契約書では第 9 条の 3 項で「乙は、事業実施記録を整備し、5 年間保存するものとする。」とある。平成 24 年度から平成 29 年度までの委託料について、当初予算と決算の数字はどう推移しているのか。また、入所児童数についても明らかにされたい。</p> <p>4 人件費、消耗品費については、決算時における金額の推移について明らかにされたい。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>5 平成 28 年度までの業務委託仕様書では「9 経費等」で「消耗品費や軽微な修繕費(1箇所50,000円以下)」だったが、平成 29 年度は「100,000円以下」に引き上げられている。消耗品費・器具備品費の「品名、個数、金額」については 2 月議会で質しても、詳細を明らかにされなかったため、過去計 4 回にわたって、平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間分を情報公開条例に基づき開示請求を行ったが、回答は、いずれも「放課後児童クラブ運営業務の委託先から報告を求めている書類のため不存在」と、門前払いであった。しかしながら、9 月 25 日付で『平成 27 年度・平成 28 年度放課後児童クラブ消耗品費・器具備品費等に係る資料』と開示請求したら、直ちに 9 月 27 日に開示された。したがって、平成 24 年度から平成 26 年度分についても開示することを求めるがいかかか。</p> <p>6 開示された平成 27 年度、平成 28 年度分について、業務委託仕様書、同契約書に照らし合わせてみてどのように判断しているのか。</p> <p>7 人件費については、法に照らして、まっとうな支払いが行われているか。</p>
		2 踏切段差の解消について	1 市道内谷川 6 号線新田 3 号線地内東北本線大和田踏切段差解消について、議会でこれまでも指摘してきたが、踏切内の段差が解消されていない。栗原市内でも有壁地内にある東北本線踏切は立派に改修されていることを指摘し、当該踏切についても早急に対処することを求めてきたが、JR 東日本の対応はどのように具体的に対処されようとしているのか。
		3 紙おむつ支給制度の拡充を求める	1 介護に必要な紙おむつ等の支給対象者は、「世帯の構成員全員が市町村民税非課税である者」とされている。「非課税世帯」の要件を撤廃することなど、支給対象者の拡大をはじめ、制度の拡充を求めるがいかかか。
		4 新田、新川両サイフォン内の対応について	1 新田、新川両サイフォン内の堆積土砂の調査とその対応策を求めてきたが、現在の進捗状況はいかかか。

※ この要旨は、各議員から提出された通告書の要点をまとめたものです。